

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2018

August
No.1078

8月

表紙

第76回本高祭
仮装パフォーマンス



Pick up

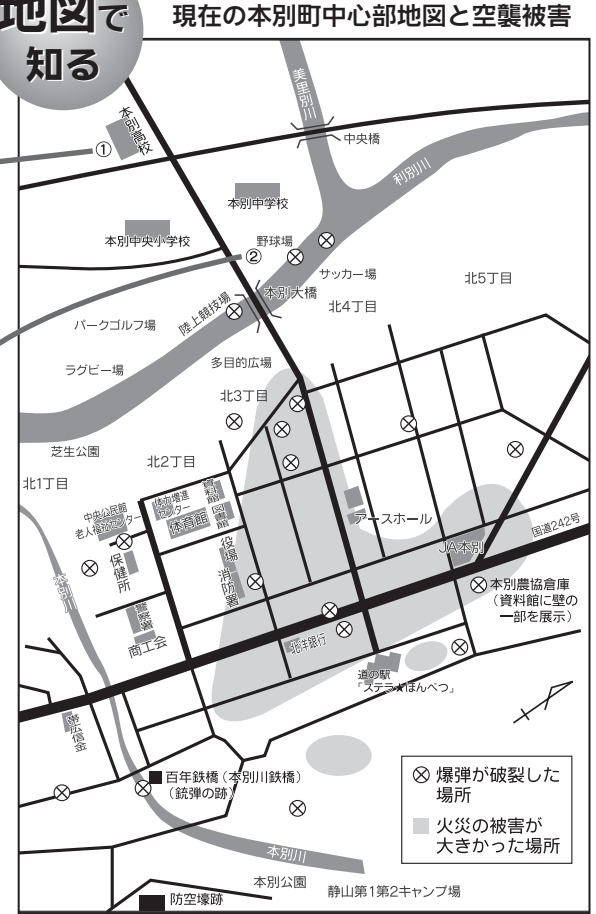
- ✿ 本別空襲を振り返る／資料館企画展～つなごう平和への願い～
- ✿ 本別高校の支援の輪を広げる町民の集いを開催します
- ✿ 星空キャンプが開催されました

本別空襲を振り返る

本別町はどんな空襲を受けたの？

今から73年前の昭和20(1945)年7月15日午前8時20分ころ、よく晴れた本別上空に、上浦幌方面から43機のアメリカ海軍機が飛来し、爆弾や機銃による攻撃が始まりました。空襲警報が鳴り響き、人々は防空壕に避難しましたが、入りきれずに物陰で伏せたり、住宅内の押し入れやムロに逃げ込んだりする人もいました。本別はかつてない大混乱となったのです。この空襲は約45分間続き、町中に火災が広がりました。爆音や地響きは隣町まで届き、高台からは火の手や煙が見えたと言います。三日三晩燃え続けたまち。大切な命と財産を失った人々。この空襲の被害と爪跡を資料で振り返ります。(参考)「記録・本別空襲」本別町図書館編

地図で知る



※上記地図のほか、亜麻工場(柏木町、向陽町)、軍馬補充部(西仙美里)などでも空襲被害がありました

① 山内教頭殉職の碑



旧制本別中学校(現・本別高校)も空襲を受けました。この日は日曜日でしたが、15日は登校日だったため、朝から生徒と教職員が学校にいました。生徒全員を防空壕やたこつぼ(1人用の簡易防空壕)に避難させた後、山内三郎教頭が爆弾の破片を体を受けて亡くなりました。今でも学校敷地内に一期生が建てた慰霊碑があり、毎年7月15日に本別高校同窓会による慰霊祭が執り行われています。

本高祭ミニ移動展

7月7日・8日に行われた本高祭の会場で、資料館企画展のミニ移動展が行われました。これは本別高校の歴史にとっても重大な出来事である本別空襲を生徒や来場者に伝えるためのパネル展示で、3年前から続けられています。



② 不発弾発見位置



昭和50(1975)年9月22日夕方、本別大橋近くの河川敷で、本別空襲時に投下されたものと見られる不発弾(重さ225kg)が発見されました。表面は腐食していましたが、信管が付いたままで、翌日帯広陸上自衛隊の爆弾処理班によって搬出されました。

不発弾実物大模型

資料館企画展で、新たに展示しています。長さ120cm、胴囲119cm、信管の直径19cmの実物大で、資料館スタッフの手づくり模型です。見学した児童らは「大きくて怖い!」「こんなものが空から落ちてきたらどうしよう!」と、驚きながら見上げていました。



模型で知る

軍馬補充部十勝支部模型

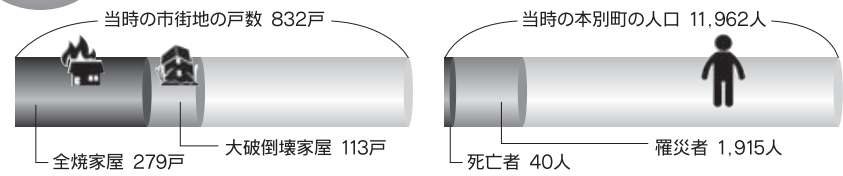
「写真や図にない立体感で、空襲当時の様子を伝えたい」と、吉川勤志さん(弥生町)が制作した模型です。書籍に掲載された昭和18(1943)年の軍馬補充部十勝支部の写真や施設の配置図を参考に、ベニヤ板などの廃材で作られ、歴史民俗資料館に寄贈されました。大きさは縦150cm、横100cm。来場者の目を引いています。



数字で知る

40人が犠牲に

本別空襲は、十勝管内では最大、北海道でも函館(青函連絡船を含む)、室蘭、根室、釧路について5番目の被害となりました。



資料館 企画展 7/1~8/31

「本別空襲」を伝える資料館企画展は、今年20回目。戦後50年の平成7（1995）年に始まり、平成12（2000）年から毎年夏の展示として開催してきました。本別空襲をはじめ、本別の人々が体験した戦争を物語る実物資料や写真など、毎回テーマに沿って続けてきた企画展のあゆみを振り返ります。



第1回 ほんべつ空襲と戦後50年／昭和20年7月15日空襲を受ける本別



第6回 知覧特攻平和会館の資料とともに／特攻隊員の写真ポスター



第9回 パロン西と硫黄島の戦い（特別展）／パロン西と愛馬ウラヌス



第14回 太平洋戦争と本別の人々／日の丸の寄せ書き



第20回 つなごう平和への願い／平成30年7月本別上空



第7回 戦後60年（特別展）／被弾した本別座の鉄柱

第1回の燃え上がる本別市街の写真は、軍機から撮影した空襲開始から間もないころの様子です。空襲の恐怖とその後の悲劇を象徴する資料として、毎回展示しています。一方、第20回の写真は、ドローンでほぼ同じ角度から捉えたものです。穏やかで緑豊かな今の本別の姿に73年という年月の流れを感じるとともに、復興に尽力した先人の思い、平和な町を未来に託す私たちの願いをつないでいきたいものです。

企画展と連携した 平和学習

町内の各学校では、企画展を見学するだけでなく、本別ならではの平和学習を進めています。見る、聞く、触れる、味わう、といった体験が、子どもたちの心に残れば、平和について自分の力で考える大人になるでしょう。この子どもたちが未来に平和をつないでくれることを願います。

絵本の読み聞かせ
本別中央小学校2年生



低学年児童は、物語を通して戦争は本当にあった悲しい出来事だと学びます

昔の食文化体験
勇足小学校全校



語りべから戦時中の食糧事情を聞きながら「雑穀入りのおかゆ」を試食しました

昔の服装体験
勇足中学校全校



戦時中は大人ばかりでなく男子生徒も巻いていた「ゲートル」の巻き方を教わりました

平和をつなぐワークショップ
仙美里小学校5・6年生



二度と戦争が起きらないように願って「せんそうぼうさ」を作りました

本別町戦没者・ 戦災死没者追悼式

本別町では、日清・日露・第二次世界大戦の戦役で299人が戦死。終戦直前の昭和20年7月15日には、米軍機による本別空襲で40人が犠牲になり、十勝で最大の被災地となりました。

7月15日に開かれた今年の追悼式では、サイレンの吹鳴に合わせて参列者全員で黙とうを捧げた後、高橋正夫町長が「戦後70有余年の長い歳月が過ぎ、時の流れは悲惨な戦争の記憶を風化させ、平和の尊ささえ忘れさせようとしています。国際社会では現在もおおむね武力による紛争が続いていることを考えると、今こそ真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さぬよう、町民とともに決意を新たにすることが今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上の勤めです」と式辞を述べ、方川一郎町議会議長、桑田達一社会福祉協議会会長、政木高治本別町遺族親睦会代表らが追悼の言葉を送りました。

続いて、参列者約80人が献花を捧げ、犠牲者への冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。



献花を捧げる政木代表



本別町遺族親睦会の会員7人が7月12日、本別神社内の戦没者慰霊碑を清掃奉仕



将来に渡って活力ある地域を維持していくために

「まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進を目指して」

その3

5月号からスタートした「シラス地方創生」。現在、本町におきましては、今後の人口減少に対応すべく、本別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、さまざまな事業や取り組みを進めています。

3回目の今回は、4つの基本目標のうち、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」目標についての数値目標や成果指標の達成状況等についてお知らせします。

※地方創生に推進にあたっては、平成27年10月に策定した総合戦略に基づく数値目標や検証時の参考となる重要業績評価指標（KPI）を参考としながら、施策や事業効果等の検証による推進方策の改善を図りつつ、着実に推進することが重要です。

数値目標の達成状況

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる

<基本的方向>

若い世代が、結婚・出産や子育てに希望を持てる地域の実現を目指し、次世代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう地域全体で育む環境づくりを推進します。

(計画時) 数値目標	平成31年	合計特殊出生率	
		(平成25～29年) 1.88	
基準値	平成26年	(平成20～24年) 1.68	
実績値	平成27年	—	
	平成28年	— ※1	
	平成29年	—	
達成度 ※2		—	

※1 数値目標の「合計特殊出生率」は、厚生労働省が「国勢調査の年を中心とした5年間のデータを取りまとめている「人口動態保健所・市町村別統計」による公表値を目標値としているため、これまでの実績値は無く、平成31年3月ごろの公表予定となっています。

※2 達成度の目安 A：目標値達成 B：目標値の7割以上達成

- 本町に在住または働く若者の交流機会の創出・推進を図ることを目的として「若者の輪創造プロジェクト実行委員会（5団体13人）」を平成28年5月に結成。若者が集うイベント開催により、これまで、延べ400人を超える参加者から、若者間の交流による多様なネットワークの構築や新しいコミュニティが徐々に生まれ、地域内飲食店への波及など、まちの活気や賑わいの創出につながっています。
- 平成29年4月1日にスタートした幼保連携型認定こども園では、0歳児～2歳児には、質の高い保育、3歳児～5歳児に対しては、質の高い幼児期の学校教育および保育の提供を行っています。さらに、子育て支援の拠点となる、子育て支援センターを認定こども園内に設置し、子育て家庭に対する相談指導、各種子育てに係る情報の提供、援助の調整等を実施しています。
- 子供たちの生きる力を育むため学校と家庭・地域が一体となり、学校や地域自らの発想をもって教育活動を展開する「ほんべつ学びの日」を推進。地域と学校を結ぶ仕組みづくりを促進する奨励金制度を設置し、子供たちの学びや成長を支援しています。

重要業績評価指標（KPI）の進捗・達成状況

基本目標3に掲げる「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境をつくる」取り組みでは、若い世代の交流機会の創出や、安心して子どもを産み育てる環境の充実を図るための取り組みなどを推進しており、これまでの取り組みが反映される重要業績評価指標についての実績や達成状況については、以下の通りとなっています。

なお表中、最右列の達成度のアルファベット表示は、目標指標に対する達成状況の目安として、A：目標値達成、B：目標値の7割以上達成、C：目標値の5割以上達成、D：目標値の5割未満達成の区分により表示しています。

重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicatorの略称
施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう

主な施策項目	重要業績評価指標（KPI）	目標値 (平成31年度) (5年累計)	実績値		達成度	
			(上段H28)	(下段H29)	(上段H28)	(下段H29)
1. 若い世代の出会いと交流の機会の創出	婚活/交流イベントへの参加者数	1,000人	299人	458人	B	B
			100%	100%	A	A
2. 安心して子どもを産み育てる環境の充実	妊婦健診受診率	100%	100%	100%	A	A
	乳幼児健診受診率	100%	100%	100%	A	A
	子育て支援拠点事業のべ利用者数	4,520人	3,012人	6,056人	C	A
	就学前教育/保育利用率0歳～2歳	43.1%	37.7%	47.9%	B	A
	就学前教育/保育利用率3歳～5歳	100%	100%	97.7%	A	B
3. 教育環境の充実	子育て中の保護者が「地域の人に支えられている」と感じる割合	80%	実績値なし	—	H31測定	—
	「本別町が好き」と思う中学生の率	95%	実績値なし	—	H31測定	—
	町内中学生の地元高校への進学率	65%	55%	35%	B	C

各施策のKPIについて平成28年度は、7項目中3項目が「A. 目標値達成」、3項目が「B. 目標値の7割以上達成」、1項目が「C. 5割以上の達成」となりました。

また、平成29年度は、4項目が「A. 目標値達成」、2項目が「B. 目標値の7割以上達成」、1項目が「C. 5割以上の達成」となりました。

「A. 目標値達成」となったKPIのうち、「乳幼児健診受診率」については、4か月・7か月・12か月児を対象に健康管理センターで乳幼児健診を実施しています。本年4月には、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供する「子育て世代包括支援センター」を健康管理センター内に開設し、ワンストップ相談窓口として、乳幼児の健康、発育や発達・栄養など育児全般について、医師・保健師・栄養士が指導や相談を受けています。

「B→C」となったKPI「町内中学生の地元高校への進学率」については、少子化により中学卒業生は減少しており、将来的に高校の2間口を維持し続けることは難しいものの、魅力や特色ある高校づくりを支援し、町内中学生の地元高校への進学につなげていく必要があります。

問い合わせ 企画振興課 地方創生推進室 ☎22-8121



町起業家等支援要綱を活用して、起業や新商品開発に携わった個人や企業の成果発表会が6月28日、津村会館で開かれました。

起業家等支援事業成果発表会

夢実現に向け、起業家2件、

新製品開発1件を認定

町では、起業の促進によって産業の振興や商店街の活性化、雇用の拡大を図ることを目的に、起業家や新製品の開発に対する支援を平成24年にスタート。平成28年度までの5年間で計33件の計画が認定されています。6年目を迎えた平成29年度は、4回の事業計画審査会（委員長 大和田収副町長）が開かれ、申請のあった起業家等支援2件、新製品等開発支援1件が認定されました。

町では、起業の促進によって産業の振興や商店街の活性化、雇用の拡大を図ることを目的に、起業家や新製品の開発に対する支援を平成24年にスタート。平成28年度までの5年間で計33件の計画が認定されています。6年目を迎えた平成29年度は、4回の事業計画審査会（委員長 大和田収副町長）が開かれ、申請のあった起業家等支援2件、新製品等開発支援1件が認定されました。



新製品の試食会ではさまざまな意見が出され、参加者の交流が図られました

平成29年度認定

起業家等支援事業



ヒーリングサロン linolino リラクゼーション業



ほんべつはりきゅう整骨院 医療業

新製品等開発支援事業



欧風ケーキ工房 かねもり 本別産豆餡の菓子

本別高校の支援の輪を広げる町民の集いを開催します

本別町・本別町教育委員会・本別高校の教育を考える会では、伝統ある本別高校を町全体で支援をしていくことを目的に、第2回「本別高校の支援の輪を広げる町民の集い」を開催します。



平成28年6月3日に開かれた第1回目の集いには、本別高校OBをはじめ、たくさんの町民の皆さんに参加いただき、本別高校存続への思いをひとつにしました。

今回は学校活動や授業、進路の状況のほか、いきいきと学び自分の夢を実現させるため頑張っている生徒、夢の実現をサポートする先生の姿など紹介します。本別高校の保護者や町内小中学校の保護者をはじめ、多くの町民の皆さんの参加をお願いします。



とき 8月8日(水) 午後7時～午後8時30分

ところ 本別町中央公民館 大ホール

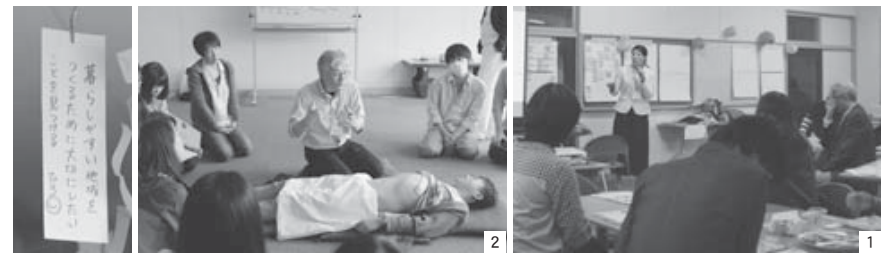
- 内容
- オープニングセレモニー ～本別高校吹奏楽部演奏～
 - 本別高校の現状について
「これからの高校づくりに関する指針」による本別高校が置かれている現状
 - 本別高校の取り組みについて
■ 生徒代表から ■ 校長から ■ 保護者から
 - 本別高校卒業生からの報告



前回の様子

問い合わせ 本別町教育委員会 管理課 ☎22-2331

星空キャンプ2018



道内外の医学生や看護学生、医療従事者などが本別町をフィールドにして、地域医療を実践的に学ぶ「星空キャンプ2018」が7月6日～8日の3日間、美里別地区公民館ほか町内で開催されました。

熱き医療系学生、医療者が 全国から本別に集結

今年で2回目となるキャンプは、多職種で地域医療を実践的に学ぶことをテーマに、地域包括ケア研究所（所長＝長野県包訪中央病院名誉院長鎌田貴医師）主催のもと開かれ26人が参加。2泊3日のプログラムでは、鎌田医師や同研究所の鷹野和美医学博士が地域医療の魅力について講演したほか、参加者と健康管理センターの保健師による多職種連携のワークショップや、町国保病院の医師や看護師がサポーター役となって町内各所を回る地域診断など、いろいろな人と関わりながら地域医療を学びました。また、京都府立医科大学の山根由起子看護師による「食に関する「食べる支援」（写真①）や、諏訪中央病院の山中克郎医師による患者の声を情報を引き出し的確な診断をする「攻める問診」（写真②）について、講演が行われました。

今年で2回目となるキャンプは、多職種で地域医療を実践的に学ぶことをテーマに、地域包括ケア研究所（所長＝長野県包訪中央病院名誉院長鎌田貴医師）主催のもと開かれ26人が参加。2泊3日のプログラムでは、鎌田医師や同研究所の鷹野和美医学博士が地域医療の魅力について講演したほか、参加者と健康管理センターの保健師による多職種連携のワークショップや、町国保病院の医師や看護師がサポーター役となって町内各所を回る地域診断など、いろいろな人と関わりながら地域医療を学びました。また、京都府立医科大学の山根由起子看護師による「食に関する「食べる支援」（写真①）や、諏訪中央病院の山中克郎医師による患者の声を情報を引き出し的確な診断をする「攻める問診」（写真②）について、講演が行われました。

地域診断では、参加者が少人数のグループに分かれて、町内の商店や小規模多機能事業所などを訪れ、地域の声を聞き情報を収集し、本別の特徴を調査。あるグループは本高祭が行われていた本別高校でインタビューをし、高校生から「この町が好きです」と住み続けたい」、「イベントが多くて好き」といった声や、道の駅では野菜等の購入に地元の人も多く利用しているといったことを聞き取りました。収集した情報を基に話し合いが行われ、近所へのおすそ分けや見守りなどの助け合いの精神が根付いていること、世代間交流や若者の交流など、一歩離れた所から「診る」本別にしたいさまざまな意見が出されました。そこから見えた課題について解決策をまとめ発表が行われました。

地域医療を知る



「健康寿命を延ばすことが目標ではなく幸福度を高めることを目指す」（鎌田医師、写真左上）、「地域医療ほど面白いものはない」（鷹野博士、写真右上）

多職種連携～相互の役割を学ぶ



町国保病院の郡山智也医師（写真右上）の進行による多職種連携のワークショップ。医師が看護師役となるなど与えられた設定の基に話し合いが行われ、自分とは異なる立場で議論を展開し、お互いの役割を体験しました。

地域を診る



小規模多機能事業所「ゆうあいの里」を訪れた班（写真左下）では、隣接する勇足保育所との世代間交流などについて、利用者や職員から話を聞きました。

**本別と医療・福祉が
つながる3日間**

3日間のスケジュールを終えた参加者からは「キャンプ参加のため、初めて本別を訪ねた人が温かい町」「いろいろな職種の人と関わるのができた」「来年も参加したい」などの声が開かれました。北は礼文町、南は鳥取県と全国から本別町に集まり、また昨年の参加者のうち3人がリピーター参加するなど、星空キャンプは、本別町と医療・福祉に携わる人をつなぐイベントとなりました。

昨年の星空キャンプ参加者、 本別町へ移住!

町国保病院勤務 **三浦由貴さん**
（社会福祉士）

昨年、大阪から星空キャンプに参加したことがきっかけとなり、この4月に本別町へ移住をしました。地域医療について学ぶ機会は他ではほとんどありませんが、今年は事業のお手伝いとして、昨年とは異なる立場で参加させてもらい、私自身もいろいろなことを学ぶことができた密度の濃い3日間でした。2回目の参加でも日々新しい発見があり、ひとつとして同じものはありませんでした。今回のキャンプで地域医療はもちろん、本別町の取り組みを知り、リピーターや新たに参加したいという人が増えればなと思います。



写真左から、昨年に引き続き参加した山田一紀さん、三浦由貴さん、鎌田医師

各学校の手作りページ

HELLO 本別高等学校

校訓 創意実践

本高の進路活動・部活動

立教大生による進路講話

6月28日、進路意識高揚を目的として、東京六大学の1つ立教大学の学生2人による進路講話を実施しました。3学年の大学・短大進学の生徒が対象で、「高校生活と大学生生活の違い」や「高校生のうちにやっておくべきこと」を中心に、グループディスカッション形式でお話しいただきました。生徒は自分の大学生活に思いをはせていました。



全校心一つになって 高野連全校応援

6月26日、全国高等学校野球選手権大会十勝支部予選の初戦、対広尾高校戦で全校応援を行いました。2年ぶりの単独チームでの出場で、応援にも熱が入り、好プレーも見られましたが、反撃一歩及ばず、3-6で惜敗しました。選手の健闘ぶりに大きな拍手が送られました。



高体連十勝支部大会で活躍 全道大会へ!

高体連十勝支部大会が5月下旬に行われました。3年生にとって最後の大会、各部とも力を尽くし、弓道女子個人戦で米澤萌香さん(2年)が、陸上競技で佐藤碧惟さん(1年)と貝瀬菜有さん(1年)が全道大会へと駒を進めました。

現在、各部とも秋の新人戦での飛躍に向けて練習に励んでいます。



北海道本別高等学校

中川郡本別町弥生町49番地

TEL: 0156-22-2052 / 2068

<http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/>

今後の主な行事

8月28日 オープンスクール

9月26日 芸術鑑賞(落語)

※ホームページにさまざまな情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



美しい歌声で合唱を披露



個性あふれるダンス!



本高祭

本高祭の今年のテーマは「Generation」。7日は時折小雨がまじるあいにくの天候でしたが、毎年恒例の仮装行列とパフォーマンスが役場前で行われました。生徒らはクラスターに沿った仮装衣装を身にまとって息のあったダンスを披露し、会場に詰めかけた保護者などから大きな拍手が送られました。続いて、同校体育館では学年ごとに合唱が発表されたほか、8日には演劇やバザー、催し物などが開かれ、同校には子どもから高齢者まで多くの人が訪れました。

本別高校(近藤浩文校長、102人)では、第76回本高祭が7月7日・8日の2日間、同校などで開催され、恒例の仮装行列やパフォーマンスを披露しました。また、進路学習「本高・進路Quest(クエスト)」が7月12日、同校で開催され、職業別の模擬体験授業や専門学校生による進路ミュージカル、学校別進路ガイダンスなどが行われました。

本高・進路Quest(クエスト)

同学習は、本別高校の全校生徒をはじめ、生徒の保護者や町内外小・中学生の保護者、教職員などを対象に、昨年に続き2回目の開催。職業別の模擬体験授業には同校生徒のほか町内の中学3年生も参加し、調理師や美容師、公務員、トリマーなど14の職業から興味のある教室に分かれて、大学や専門学校等の講師から実技などの授業を受けました。今年初開催となる進路ミュージカルでは、この春まで本別高校に在学していた生徒も含めた専門学校生のスタッフが、進路に悩む高校生の姿を熱演。見学した本高生の共感を生んでいました。同校体育館で行われた学校別の進路ガイダンスには、約100の大学や短期大学、専門学校、企業、団体などの担当者が各ブースで資料を配りながら、それぞれの取り組みや特色などを説明。生徒や保護者らは興味のあるブースを訪れ、積極的に情報を収集しました。また、夕方から保護者を対象とした奨学金などに関する講演会が行われ、進学費用の目安や奨学金制度などについて理解を深めました。

約100の大学・短期大学や専門学校などが参加



進路ミュージカル



保護者も参加

劇で詐欺を注意

6/19

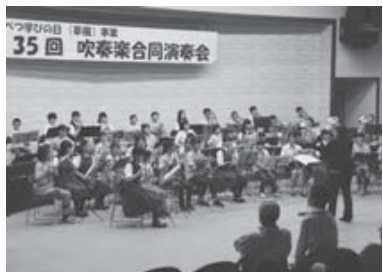
北4～6丁目と清流町の住民で組織する「なごやかよつば会」（野原正廣会長）の介護予防教室が6月19日、健康管理センターで行われました。軽スポーツで体を動かした後、地域住民と警察署員、健康管理センター保健師による寸劇が披露されました。劇は電子マネーやコンビニ代行決済を手口とした架空請求詐欺について、実際に起こった事件を基に構成。参加者30人は、詐欺の手口や詐欺にあったときの対応など理解を深めました。



4団体が練習の成果を披露

6/23

第35回吹奏楽合同演奏会（町文化協会主催）が6月23日、中央公民館で開催されました。演奏には本別ジュニアブラスアンサンブル、本別中学校吹奏楽部、本別高等学校吹奏楽部、本別ブラスアンサンブルの4団体72人が出演し、映画・アニメソングや聴き慣れた歌謡曲など15曲を、日ごろの活動成果として披露。最後は4団体合同によりアンコールを含め3曲を演奏し、会場を訪れた家族や友人たち約270人の観客を魅了しました。



まちがきれいに

本別町技能士会（近藤広美会長、9人）が奉仕活動として6月17日、銀河通りの水星公園に設置されている花壇樽（木製プランター）4台を修繕しました。銀河通り商店街協同組合（川崎秀規理事長）からの要望により、使いやすいように高さをこれまでの半分（約20cm）にカットされた樽が近藤会長から川崎理事長へ手渡されました。本別建設業協会二世会（三村智勝会長）の会員11人が6月28日、町道愛のかけ橋通り（南3～南4丁目）の歩道の草取りおよび土砂溜りの清掃を行いました。鎌田建設工業（鎌田健治社長）の作業員10人が6月28日、町道共栄緑町線通りにマリーゴールドやペゴニアなど800株を植樹しました。いずれも地域貢献活動の一環として環境整備が行われたもので、まちがきれいに整備されました。



6/17

本別町技能士会



6/28

本別建設業協会二世会



6/28

鎌田建設工業



① 産業組合事務所と倉庫（大正5年ごろ撮影）



②

昭和5（1930）年に建てられた大通り倉庫

③ 平成25（2013）年6月解体前的大通り倉庫内部

④ 資料館に常設している大通り倉庫のコンクリート壁

※写真はいずれも歴史民俗資料館所蔵



③



④

問い合わせ

歴史民俗資料館
（☎22-2141 内410）
図書館（☎22-5112）



歴史写真館
@ほんべつ

大正時代に入ると、第一次世界大戦の影響もあって農産物取引が盛んになり、十勝の豆の作況が世界の相場を左右したと言います。本別町でもこのころ「豆成金」が続出、一方で産業組合（現・農業協同組合）の基礎づくりの時期でもありました。

「歴史写真館@ほんべつ」5回目は、好景気に沸く大正初期、「豆のまち本別」を支えてきた農業倉庫の移り変わりをお伝えします。

現在の本別町農業協同組合の前身である本別信用購買販売組合（産業組合）は、大正2（1913）年に本別開拓八翁の一人である井出英作を初代組合長として誕生しました。組合員は33人。それまで農産物の販売や生産資材の購入は業者委託があっせんによるものでしたが、組合員の利益のため、組合が直接扱うための施設が必要となり、当初は仮事務所を現在の弥生町に置きましたが、大正5（1916）年、本別駅前産業組合事務所と販売倉庫が建てられたのです。写真①をよく見ると、左側の大きな建物の看板に「無限責任本別信用販売購買組合」と読めます。増築された倉庫の落成記念写真のようですが、このころ1号倉庫、2号倉庫が完成するなど施設整備が進み、生産物の収容増に伴い、大正10（1921）年には3号倉庫を増築しました。

⑤ 大正5年ごろ

農業発展の象徴

産業組合倉庫

しかし、相次ぐ災害で損傷したため、昭和5（1930）年、木造で壁面コンクリートの農業倉庫（大通り倉庫）が新築されました（写真②）。内部に雑穀精選工場が設置されたこの倉庫は、当時十勝の産業組合の施設では最大のものでした。昭和20（1945）年7月15日の本別空襲では銃撃を受け、壁に多数か所の弾痕が残りました。空襲の史跡として、多くの人々に平和の大切さを伝えてきましたが、建物の老朽化と国道の拡幅により解体されることになり（写真③）、平成25（2013）年7月の解体時に壁の一部を切り取り、戦争の歴史を風化させないよう「本別空襲の爪跡」として資料館に常設しています（写真④）。

6 23

はしご酒が初めての土曜日開催

町内飲食店を飲み歩く第6回はしご酒ナイト(実行委員会主催)が6月23日、町内17飲食店で行われました。初めての土曜日開催に180人が参加。職場の仲間や友人同士で4~5人程度のグループに分かれた参加者は、アースホールで受け付けをした後、チケットに記載された3店舗を約2時間で巡りながら、各店で1ドリンクとおつまみ、おしゃべりで「飲みニケーション」を満喫。ラリー終了後は同ホールでの抽選会に参加し、ほろ酔い気分で大盛り上がりしました。



6 23

あかげら少年団活動スタート!

町教育委員会主催のあかげら少年団が6月23日、町体育館で結団式を行い、町内小学校3~6年生の年間登録団員6人で今年度の事業がスタートしました。今年度から同少年団活動へ参加するには年間登録団員のほか、年間7回の開催事業ごとに参加者を募集するシステムに変更。前期第1回目「凧あげに挑戦!」には7人が参加し、町体育館で町スポーツ推進委員の指導のもと、思い思いにデザインした凧を製作し、河川運動公園に移動後は凧のあがっている時間などを競いました。また第2回目「水上レクリエーション」が7月7日、町民水泳プールで開かれ9人が参加。水中綱引きのほか、ロープを使ったターザンジャンプ、畳ほどの発泡剤を利用した浮島ジャンプなど、普段のプールでは出来ないメニューを参加者は楽しみました。



7 7

国民年金 コーナー

その196

「ねんきんネット」でも
いつでも年金記録を
確認できます

日本年金機構では、年金加入者や年金受給者が、本人の年金記録などをインターネットで確認できる「ねんきんネット」サービスを提供しています。自宅のパソコンから利用登録をすることで、毎月更新される年金記録をいつでも確認できます。

パソコン等を利用し、
本人が確認する場合

日本年金機構のホームページで、ログインに必要なパスワードの設定と、ユーザIDの取得手続きを行います。手続きから5日程度で送付されるハガキに書かれたユーザIDと設定したパスワードを用いて、ねんきんネットを利用できます。



6 24

青空の下、町民ゴルフ大会に55人が参加

第21回本別町民ゴルフ大会(実行委員会主催)が6月24日、帯広白樺カントリークラブで実施されました。競技は18ホールストロークプレー、ダブルレバア方式で行われ、参加した55人は鋭いショットを繰り出しながら白熱したプレーを展開しました。会場では、本別町のスポーツ振興を目的としたチャリティーボックスが設けられ、集まった58,000円の募金は本別町スポーツ振興基金へ寄付されました。成績は次のとおり。
優勝=中前行視さん、準優勝=太田和幸さん、第3位=永井米男さん



6 29

伝統文化こども教室がスタート

本別伝統文化継承会(戸田京子会長)による伝統文化子ども教室の開講式が6月29日、中央公民館で開かれました。日本の文化に触れることを目的として今年で12年目となる取り組みに、町内の小中学生8人が参加。戸田会長は、「お茶教室を通して基本的な作法を楽しみながら学び、日本の歴史と美しい伝統文化を受け継いでほしい」と語りました。同教室は10月までに9回の実技活動を行い、児童らは町の文化祭や学びの日フェスティバルで成果を披露する予定です。



6 24

白糖大漁まつりでPR

町観光協会(野田仁会長)等が6月24日、白糖町で開催された「第22回港in白糖大漁まつり」に出店し、町の特産品をPRしました。販売したのは、黒豆や小豆などの生豆、味噌や豆腐、甘納豆などのキレイメ商品のほか、黒豆味噌を使った豚まん「黒まん」など約40種類で、今回で6回目の出店。白糖町民をはじめ、多くの来場者から注目を集め、行列ができるなど大盛況となりました。本別町と白糖町は平成25年に「包括交流連携協定」が締結され、交流事業としてお互いのイベントに出展しています。



役場でねんきんネットの
サービスを提供します

インターネットを利用できなくても、自分の年金記録を確認したいときは、役場住民課で年金記録を印刷してお渡しできます。なお、役場が提供できるねんきんネットサービスは「年金記録照会」のみで、他のサービスは提供できません。

- 確認できること
 - ・公的年金制度(国民年金・厚生年金・船員保険)の年金記録と納付状況
 - ・厚生年金加入時の標準報酬月額および標準賞与額
 - ・年金額の試算
- 手続きに必要なもの
 - ・本人確認書類(マイナンバーカード、運転免許証など)
 - ・基礎年金番号が確認できるもの(年金手帳、基礎年金番号通知書など)
 - ・印鑑(シャチハタ不可)

※代理人が手続きする場合は、委任状確認書類、代理人の印鑑が必要です
※年金記録のお渡しには15分程度かかるため、時間に余裕をもってお越しください

詳しい情報は
住民課戸籍年金担当
6221-8128
日本年金機構のホームページは
<http://www.nenkin.go.jp/>

行政相談委員制度 について学ぶ 7 10

第3回義経勇足教室が7月10日、勇足地区公民館で開かれました。今回は、釧路行政評価分室職員2人と町行政相談委員の松山守雄さんによる行政相談出前講座が行われました。最初に同分室職員から同委員制度について説明がされた後、松山委員も加わって、行政相談により解決された町内外の事例や相談方法、日ごろの相談活動について話し、参加した14人は気軽に相談できる行政相談委員制度を学びました。



夜でかけナイト 7 6

第43回夜でかけナイト（実行委員会主催）が7月6日、北1丁目～北4丁目の商店街で開催されました。大道芸人によるパフォーマンスや抽選会などの催し物が行われたほか、各商店の自慢の味や商品をワンコインで楽しめたり、ビールや焼き鳥を販売する屋台もあり、家族連れや職場の仲間が夏の夜を満喫しました。



全道陸上大会へ 出場報告 7 10

十勝予選を突破し、7月15日、16日に函館市で開催される第36回北海道小学生陸上競技会に80mハードルで出場する本別陸上少年団（葛西尚美代表指導者）の山田咲矢花さん（勇足小6年）が7月10日、教育委員会を訪れ、佐々木基裕教育長に全道大会出場を報告をしました。山田さんは「自己ベスト目指して決勝に残れるよう頑張ります」と力強く抱負を述べ、佐々木教育長は「本番でも普段の力を発揮してください」と激励しました。



全道大会では決勝に進出できませんでしたが、自己ベストを更新（14秒97）し健闘しました。

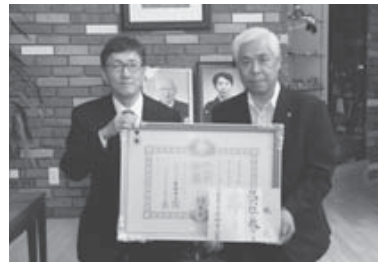
二人へ叙勲伝達 7 2・5

三好さん（北8丁目）が瑞宝単光章を受章し7月2日、十勝総合振興局坂部浩明副局長から勲記と勲章が伝達されました。また、故林武さん（元本別町議会副議長）が旭日双光章を受章し同5日、高橋正夫町長らが長男林学さん（帯広市）の自宅を訪問し、勲記と勲章を伝達しました。

三好さんは、昭和46年から平成22年までの計39年間の長きにわたり、池北三町行政事務組合本別消防署員として本町の予消防ならびに災害活動における指揮等に尽力。町役場で行われた伝達式では、消防士として勤務した当時の思い出や苦労などを語ったほか、「妻や家族の支えに感謝し、一緒に受章を喜びたい」と述べました。



故林さんは、平成6年8月に本別町議会議員に当選して以来、平成30年1月までに6期23年在職。この間、副議長を2期6年余り歴任したほか、町内で木材店を経営し、町商工会副会長および顧問のほか、町教育委員会委員、町行政改革推進委員会委員等の行政委員や、都市計画等の審議会委員など複数務めるなど、本町の地方自治と商業発展などに大きく貢献されました。伝達を受けた学さんは、「皆さんに支えていただいていたおかげで、このような章をいただくことができました。心からお礼を申し上げます。父も喜んでいていると思います」と語りました。



神居山の魅力を再発見 6 30

「ほんべつ学～夏のまなび～」(教育委員会主催)が6月30日、神居山を会場に行われました。水谷令子スポーツ推進委員の案内に導かれ、小学校2～5年生5人と中学生ジュニアリーダー18人の参加者が神居山を散策し、自生する草花や木を実際に見ながら特徴などを確認したほか、諏訪神社や句碑を巡り、山の歴史や観光資源についても学習しました。本別の身近な存在である自然アクティビティ(遊び場)を体験し、神居山の魅力をじかに肌で感じることが出来ました。



牛1頭分の牛肉、 即完売 7 1

第45回農大祭(実行委員会主催＝梅津智也実行委員長)が7月1日、同校中庭で開かれました。会場では、今年も焼き肉用の肉として、農大産黒毛和牛1頭分の約300kgを販売し、多くの家族連れなどが用意された約25台の焼き台でバーベキューを満喫。肉はもちろん、生徒らが丹精込めて作ったソーセージなどもあつという間に完売するなど人気を見せたほか、ステージでは抽選会も行われました。ときおり雨が降るあいにくの天候にもかかわらず300人以上の来場があり、会場は大変にぎわいました。



地域おこし協力隊に 着任しました！

7月1日から新たに庄田ゆきえさんが本別町の地域おこし協力隊に着任し、観光振興の任務を開始しました。本別町で活動する協力隊員は3人となり、その活躍については今後も掲載する予定です。



観光振興推進員
(企画振興課)
庄田 ゆきえ

札幌在住だった3年前に一念発起し南富良野町地域おこし協力隊として産地直売所に勤務していましたが、本別町では、町民だけが知っている逸品や場所、自慢など、国内外へPRができれば、プライベートでは折り紙講師などの資格を生かして町民の皆さんとつながりたいです。
旭川市出身 59歳

未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包ま
れてすくすく元気に育ってね!



向陽町
永井 恵
(真衣ママ)



勇足東4
山下 珠
(智美ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

50年の節目を祝う（札幌本別会）

本年度創立50周年を迎える札幌本別会（相澤裕会長）の総会および創立50周年を祝う会が6月24日、札幌市内のホテルで開催されました。当日は約40人の会員が参加し、札幌本別会のこれまでの歩みやふるさと本別町の話に花を咲かせていました。最後に「ふるさと」を出席者全員で大合唱し、来年の再会を誓い合いました。



入会をお待ちしています

東京、札幌、帯広の各地域では、本別会が組織されており、それぞれの地域に在住している本別町出身者の入会をお待ちしております。興味をお持ちの人がいらしたらご連絡ください。

問い合わせ 役場総務課庶務担当 ☎ 22-2141

ご寄付ありがとうございます 平成30年6月16日から7月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

★本別町農業振興基金
金 10,000,000円

……本別町農業協同組合
代表理事組合長
田中敏行



★本別町スポーツ振興基金
金 58,000円

……本別町民ゴルフ大会実行委員会 委員長 岡崎 勉

- ★本別中央小学校 図書購入費
金 50,000円 …… 栄 町 郡 アサ子
- ★本別中学校 図書購入費
金 50,000円 …… 栄 町 郡 アサ子
- ★特別養護老人ホーム物品等購入費
金 30,000円 …… 栄 町 永森一敏
- ★老人ホーム指定
ポータブルトイレ 1台 …… 栄 町 永森一敏
タオル 20枚 …… 美里別東下2 太田米夫

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金 4,010,000円 …… 160人

みんなの健康

408

肝臓は1・2と1・4の容量がある腹部の中で最大の臓器です。食物から摂取されたアミノ酸を代謝してタンパク質を合成したり、糖や脂肪酸・コレステロール、ビリルビン、胆汁酸などを代謝したり、薬物を解毒したりと肝臓はさまざまな巨大化学工場のような働きをしており、生命を維持する上でまさに「キモ」となる臓器です。肝機能が低下すると身体がむくんだり、貧血が進んだり、血が止まりにくくなるといった症状が出ることもあります。更に悪化すると、肝臓以外の腎臓や心肺機能、脳にも障害が及ぶこともあります。しかし多くの場合は、薬やサプリメントが原因で気づかないうちに肝臓が原因で気づいたり、それほどお酒も飲まないし太ってもないのに肝炎や脂肪肝が進

沈黙の臓器



本別町国民健康保険病院 医 長
山下 健一郎

行していたりします。このように、肝臓は障害を受けて機能が低下していても症状に現れないことが多いので、肝臓は「沈黙の臓器」ともいわれます。私はこれまで北海道大学で移植外科医として、重い肝臓病の患者さんの診療・治療に従事してきました。肝臓病や肝臓移植というと、多くの皆さんには「一部のひとの病気や治療」と思われるかもしれませんが、しかし、ウイルス性や自己免疫性、アルコール性といった他人事のように考えがちな肝臓病だけではなく、メタボリックシンドロームに伴う非アルコール性脂肪性肝疾患や薬剤性肝障害など、比較的身近に起こり得るものもあります。自覚症状がなくても知らず知らずのうちに肝臓が進行している場合や、肝臓内に腫瘍やがんが出来ていることもあります。ですので、気になる人は外来受診をお勧めします。



銀河ホップダンス

足寄町

開町110年記念

第39回足寄ふるさと盆踊り・両国花火大会

盆踊りや花火大会などさまざまな催し物で皆さんをお迎えます。
ぜひご来場ください。

と き 8月15日(水)
午後1時30分～

とこ 足寄町民センター前・利別川
両国橋河川敷

陸別町

銀河の天文台からのお知らせ

◆大流星群のひとと、ペルセウス座流星群がやってきます。観望会では、屋上の広場に畳やイスを設置、ゆったりと流し星を探してください。

8月11日(土)・13日(月)
※説明会・午後7時30分から
伝統的七夕が近づく3日間、屋上広場の足元灯がキャンドルに替わります。

8月17日(金)・19日(日)
※午後7時30分からキャンドル点灯
観望時間 午後2時～午後10時30分
※8月11日・16日は正午から特別開館
休館日 毎週月・火曜日
※8月13日(月)・14日(火)は、特別開館

お問い合わせ 銀河の森天文台
☎ 27-18100

口内容

午後1時30分～ピアガーデン・ミニステイ・フワフワドーム
午後3時30分～子ども縁日
午後5時30分～子ども盆踊り、みんなであそび足寄音頭
午後6時00分～もちまき
午後6時15分～仮装盆踊り・素踊り
午後7時15分～両国花火大会
午後8時10分～仮装盆踊り審査発表・表彰式・お楽しみ抽選会
※時間は変更になる場合があります。

お問い合わせ

足寄町役場総務課商工観光・エネルギー担当 ☎ 251-2141 内線251

入館料

大人(1人) 300円 (夜) 500円
小人(1人) 200円 (夜) 300円
※小学生未満 無料

お問い合わせ

銀河の森天文台
☎ 27-18100

本のある暮らし 209

絵本を使って 英語とながよく

~Let's enjoy picture books!~

戸籍のまど

お誕生

6月後半から
7月前半の
届出分

- 斎 仁太じん たい 啓一けい いち 6/16 北7丁目
- 宮野下 意い 拓美たく み 6/26 柏木町
- 荒木 咲人さき と 卓詩たく し 6/27 南1丁目

ご結婚

- (佐藤 大介さとう だいすけ 北8丁目
- 福沢 玲奈ふくざわ りな 豊富町

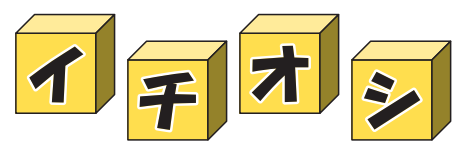
おくやみ

- 永森 貞ながもり ひと 89歳 6/17 負籠 1
- 米澤 イヨよねざわ いよ 93歳 6/19 栄 町
- 幕内キミ子まくうち きみこ 95歳 6/21 朝日町
- 石川 憲男いしかわ けんお 79歳 6/22 柳 町
- 祢津 すゞねづ すず 99歳 6/22 南1丁目
- 丹羽スエ子にひ えこ 91歳 6/24 朝日町
- 増田 克己まくだ かつみ 85歳 7/2 南4丁目
- 山根 光子やまね みつこ 90歳 7/4 美里別西上
- 石山アイ子いしやま あいこ 77歳 7/6 美里別東下1

2020年度から、小学校で英語が教科として導入されるにあたり、町では児童の英語力向上のための活動を進めています。今年4月からは、さらなる英語教育の充実を目指して英語教員1人を任用し、子供たちが身近なところから英語に親しめる取り組みを始めました。図書館でも、英語教員の意見に沿って原書の絵本などを取り入れ、楽しい授業づくりを応援しています。

英語教員

佐々木 美保ささき みほさんの



書名: **Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?**



(くまさんくまさん、なにみてるの?)

日本でもおなじみ、エリック・カールの絵本。シンプルで独特の絵がパッと目に入ります。約200語という少ない単語で、気持ちが伝わってくるところが魅力ですね。

仙美里小学校6年生の学習に使ってみた!

英語はまずアルファベットやあいさつから始めますが、絵本を活用して、日本語と英語を見比べ、聞き比べると、“気づき”がたくさん!担任の先生と相談しながら、授業を工夫しています。



これらの英語絵本は、2学期以降、他の小学校の授業や、幼児教育などで読み聞かせに活躍しそうです。小さいころから英語を体感して、豊かなコミュニケーションができるようになるといいですね。

わたしたちのまち

前月比
人口 **7,136人(±0)**
男 **3,492人(+2)**
女 **3,644人(-2)**
世帯数 **3,695戸(-3)**
〔6月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先

本別町図書館
(愛称:ぶつくる一丸)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112